



高飛び込み全中 準V 小原己知さん (伯太中)

2秒を美しく魅せるため

8月17日に鹿児島県で開かれた全国中学校(全中)水泳競技大会女子高飛び込みで、伯太中3年小原己知さんが準優勝に輝きました。

「制限選択4本が確実に決められたことが大きい。風が強く緊張したけど、普段から屋外のプールで練習しているので実力が発揮できました」と喜びを語ります。

高飛び込みとは瞬間的な芸術を極める競技です。高さ10メートルの飛び込み台から空中に飛び出し、水面までさまざまな技を繰り出します。演技時間はわずか2秒。瞬きさえ許されない間に鍛錬した技や美しさを詰め込みます。大会ごとにルールは異なりますが、全中の大会では、決められた演技(制限選択)4本、とフリー演技(3本)の合計点を争います。小原さんはミスなく演技を行い、合計339・60点の高得点をたたき出しました。同競技では一昨年10位、昨年は6位、そして今年2位と年々順位を上げ実力をつけています。今年飛び込み(3メートル)でも3位に入りました。

さらなるレベルアップを

小原さんが飛び込みを始めたのは小4の夏。米子市の県営東山水泳場で競技を見たのがきっかけです。「すぐにあの高さから飛んでみたいと思った」と、週1回の体験コースを受講。その後、コーチの勧めで米子ダイビングクラブに所属し、本格的に競技を始



▲東山水泳場での練習風景。10m飛び込み台から何度も飛び込み、技を磨きます。

めました。現在は、週5日、東山水泳場に通い毎回3時間練習を行います。指導する百田幸太郎コーチは「体のラインがキレイで競技に向いている。新しい技に躊躇なく挑戦できるのが彼女の強み」と分析します。

高飛び込みの魅力を「怖いけど技が決まり入水も完璧だと最高に気持ちいい」と小原さん。ひねりや回転を加えても水面の位置を見失うことなく体をコントロールし、演技を行います。

高校進学後も競技を続ける予定で、「入水ラインの入り方を極めてレベルアップしたい」と今後の抱負を語っていました。

編集後記

安来市の人口と世帯数 H29.8.31現在

人口合計 / 39,535人
(男:18,941人 女:20,594人)
世帯数 / 14,242世帯

▼卓球、水泳などスポーツ界で10代が世界を席巻。安来も上記の小原さんやバレー、フェンシングなどで活躍が目立ちます。指導者や環境、体格も要因だと思いますが、選手と接して感じるのがメンタル面の成熟。目標が明確でインタビューの受け答えなども素晴らしい。彼ら世代が大人になったとき、どんな社会になるか楽しみです。(山)

▼安来高校新聞部の皆さんが新安来庁舎の取材に来ました。市長へのインタビューでは気後れすることなく、時間いっぱい次々と質問を繰り返しました。市政や市の事業に関心を持ってくれるのはうれしいこと。間もなく有権者となる高校生のためにも、市政の動きを伝える紙面づくりを心がけます。(S)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用